

小児期に造血細胞移植を受けた患者の 成人期における晩期合併症および QOL に関する後方視的検討

1. 研究の対象

1985 年 1 月 1 日から 2010 年 12 月 31 日までの間に小児期で造血細胞移植を実施された方

2. 研究の目的・方法

難治および再発の小児悪性腫瘍、血液疾患に対する造血細胞移植の発展に伴い、治療成績は向上してきました。しかし、小児期に強力な化学療法や放射線治療を行うことで合併症が問題となります。小児期に造血細胞移植を受けた方を対象として、長期合併症や入学、就職、結婚などのライフイベントを含めた生活状況を検討します。

研究の方法は、患者さんの過去の診療記録を閲覧しながら、個人情報排除して別の番号で匿名化し、下記情報を用いてデータ集計を行います。

研究期間：倫理委員会承認日 ～ 1 年間

3. 研究に用いる試料・情報の種類

以下の情報を診療録及び長期フォローアップ問診票を用いて収集します。

- 1) 病歴：生年月、年齢、性別、診断名、病期、家族歴、治療内容、移植前後の合併症、再発の有無、各種検査結果
- 2) 移植後長期の合併症：GVHD、その他の合併症、二次がんの有無、治療歴
- 3) 生活情報：就学・就労、結婚・パートナー、生殖機能、子の有無、支援状況
- 4) そのほか：病気の理解度、周囲との関わりや日常生活における困難・問題の有無等

4. 外部への試料・情報の提供

外部への試料・情報の提供は行いません。

5. 研究実施機関

研究責任者：国立病院機構九州がんセンター小児・思春期腫瘍科 中山 秀樹

〒811-1395 福岡市南区野多目 3 丁目 1 番 1 号

TEL：092-541-3231

FAX：092-542-8503

※本研究に関するご質問等がございましたら、上記までご連絡ください。